

献 辞

是枝正啓教授は、1970年に九州大学経済学部卒業後、同大学大学院経済学研究科に進学され、1976年に長崎大学商業短期大学部（その後商科短期大学部）に就職されました。1997年の商科短期大学部の廃止に伴い、本学部教授として移籍され、2012年3月にご定年を迎えられました。長崎大学は、先生の在任中の業績を讃え、2012年4月22日付けで長崎大学名誉教授の称号を授与しました。

先生は、商業短期大学部就職以来本学部定年まで、一貫して、理論経済学、ミクロ経済学をご担当されたほか、全学教育（現教養教育）、ゼミ、大学院での講義などをご担当されてきました。このうち、ミクロ経済学は、本学部の基礎科目です。本学部はコース制を採用していますが、先生がご担当されたミクロ経済学は、学生がどのコースを選択しようと、履修することが求められている科目です。これは、経済学部生として共通して持つべき知識を教授する科目として位置付けられているからです。本学部卒業生の多くは、ミクロ経済学の講義を通じて、学問に対する是枝先生の厳しい姿勢に接したといっても過言ではないでしょう。

先生の研究の中心は何と言っても「ゲーム理論」です。現在の経済学研究では、ゲーム理論は当然のごとく使われていますが、先生はいち早くこの理論の有用性に着目され、その後も着実に研究に努めてこられました。特に、鈴木光男先生との共訳で1981年に出版された『経済学のためのゲーム理論』（マイケル・バカラック著、東洋経済新報社）は、我が国におけるゲーム理論の導入期における代表的な文献です。当時は関係研究者が着目していたゲーム理論を、本書は、経済学研究者が一度は学習すべき領域として確立した著作といってもよいと思います。

学会活動面では、1995年4月～2012年3月までの17年間、西日本理論経済学会（現日本応用経済学会）幹事および理事を歴任されてこられま

した。これは、先生の研究業績が長きにわたって学会で評価されてきたことの現れだと思います。2005年6月には、応用経済学会の長崎大学経済学部における開催の中心的役割を果たされました。

組織運営の面では、講座主任のほか、経済学部では入学試験委員会委員長をはじめとする各種委員会委員、大学院経済学研究科では研究科運営委員会委員や博士後期課程会議委員などを歴任されました。また、社会貢献の面でも、長崎県教育委員会（学校評議会）委員をつとめられました。

日ごろはもの静かな是枝先生ですが、納得するまで考え抜いて研究に打ち込む先生の姿勢には我々も学ぶべきものがあります。大学や学部のミッションの再定義が現在全国の大学の大きな課題となっています。しかし経済学部が経済学部として今後も存続していかなければならない以上、先生が長年にわたって担当されてきたミクロ経済学は、決してなくなることはない教育研究領域です。その意味で、私たちは先生が育ててこられたミクロ経済学の意義を受けついで行きたいと考えています。

先生は、ご定年後も、長崎県立大学で教壇に立たれておりますが、今後の先生のますますのご健勝を祈念して献辞とさせていただきます。

2012年8月31日

長崎大学経済学会長

長崎大学経済学部長

岡 田 裕 正



是枝正啓教授